

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>生徒は、部活動や学校行事に熱心に取り組み、特に大きな問題行動を起こすこともなく全般的に落ち着いている。校内の生徒指導体制に関しては、年次内・年次間の共通理解が進み、基本的な生活習慣の自立的確立をめざして、立ち番指導や身だしなみ指導等も効果的に行われている。学習指導に関しては、家庭での学習習慣を定着させるための週末課題などの取組も全般的なものとなっており、校内の気運は上昇中である。今後は、進路意識が実力に、特別活動が自主性に、マナー指導等が規範意識につながる指導を更に進めていくとともに、自習倶楽部の運営方針について進路指導課を中心に再度検討していきたい。</p> <p>本校は、選択幅の広い教育課程を旨とし、生徒が主体的に進路を考え、進路実現に向けて効率的に学習計画を立てることを可能にする単位制である。単位制の利点を生かしながら、心身の調和のとれた発達を図りながら個性を伸長する、ということを中心に教育活動を展開している。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
(1)豊かな人間性と社会性を育む心の教育の充実 (3) 家庭と地域社会との連携の強化	(2)基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 (4) 教職員の資質向上と健康増進
チャレンジ目標…「明日からじゃない 今やろう」 ・生活習慣を正そう！ ・学習に真剣に取り組もう！	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○図書館利用の活性化	・図書館施設設備や蔵書の充実を図り、「学習・情報センター」としての役割を果たす。 ・「図書だより」や「読書ノート指導」などを通じて、生徒の読書活動を支援するとともに、図書館利用の増大を図る。	4: 図書の年間貸出冊数が2,000冊以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 3: 図書の年間貸出冊数が1,500冊程度で、「図書だより」も毎月発行できた。 2: 図書の年間貸出冊数が1,500冊を大きく下回ったが、「図書だより」は毎月発行できた。 1: 図書の年間貸出冊数が1,500冊を大きく下回り、「図書だより」を毎月発行することができなかった。	2	「図書だより」については、月々の季節・行事の話題及び図書館の利用状況等を盛り込んで発行した。 今年度の図書年間貸出冊数については、クラス減や利用の多かった生徒の卒業、担当教諭(新着任)の交替等に伴って1,000冊に届かず目標を大きく下回る結果となった。 利用人数自体は各教科の授業での活用や放課後の調べ学習等の活用もあり少くはないが、より一層利用促進を図るために、教科や年次の協力を仰ぎながら各種コンクールへの参加やイベントの企画等の工夫をしていくことを次年度以降の課題とし、その解消に努めていきたい。なお、高校生の中で携帯小説やライトノベルを好む傾向が見受けられるが、蔵書に関しては利用者希望をできるだけ取り入れつつも、情報収集しながら学校図書館にふさわしいバランスのとれた構成を心掛けていきたい。	・図書館利用の目的について、どういった図書が読まれているのか変化が分かれれば示した方がよい。また、評価基準の「年間貸出冊数」については一人当たりの年間貸出冊数にした方が具体的に分かりやすい。 ・生徒が本を読むためにはどうすればよいのか今後とも具体的方策を考えていってほしい。 ・PTA総会への参加については、保護者の意識が低いのは確かであるが、関心を持っていただくよう働きかけをして、徐々に増やしていってほしい。保護者からの意見・要望も学校評議員会で示していただけたらとよい。	B
	○保護者との連携活動の強化	・保護者のPTA活動や学校行事に対する理解を深め、積極的な参加を促す。また、これらの活動を通して、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるように、保護者と学校との連携をさらに深める。	4: PTA総会をはじめ各活動に対する理解が十分深まり、保護者と学校との連携も大変充実した。 3: PTA総会をはじめ各活動に対する理解がかなり深まり、保護者と学校との連携も充実した。 2: PTA総会をはじめ各活動に対する理解はあまり深まらず、保護者と学校との連携も不十分であった。 1: PTA総会をはじめ各活動が不調であり、保護者と学校との連携は不十分であった。	3	PTA総会は毎年5月の土曜日に開催しているが、保護者参加率は、18.3%(昨年度19.4%-昨年度18.3%)とわずかながら減少した。また、その後引き続き行われる年次集会への出席も26.0%(昨年度28.2%-昨年度26.4%)と減少した。保護者からの要望を取り入れ、今後土曜日開催が妥当なのかどうか視野に入れつつ、さらに出席率が増えるように進めていきたい。 一年を通して、学校行事やPTA関連の各種行事・会議などを実施しているが、講演会などには、毎回少数ながら保護者の参加がある。明日葉祭へのバザー参加については、PTA役員の方々の熱心な活動に支えられ、多数の評議員(各クラス選出)の積極的な参加があり、収益を生徒会に寄付している。また今年度からPTA学校見学を開催し上級学校へ見学に行った。 これらの成果を足がかりに、さまざまな場面を通して保護者との連携を深める工夫をしていきたい。		
教務	○課題学習を中心とした学習習慣の定着	・全学年を対象に、国語・数学・英語の3教科を中心に、年間を通じて定期的に課題を与え提出させることを計画し、また、課題の取組を積極的に評価に組み込むことにより、家庭学習の定着を図り学力の充実を図る。	4: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が80%以上であった。 3: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が70%から80%であった。 2: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が50%から70%であった。 1: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が50%に満たなかった。	4	今年度は全学年の生徒を対象に、年間を通して考查週間以外の週末毎に、国語・数学・英語の課題を計画的に与えることを実行した。数学は、1週間の学習内容の振り返りを中心に、国語・英語は文法を中心に取り組ませた。年次全体の取組として位置づけたこともあり、生徒は高い意識をもって取り組んだ。定期考査において基礎学力の定着が見受けられ、一部、模擬試験にも成果が現れている。家庭学習の意識付けができ、週末の学習時間が増え、基礎学力の定着の一助となった。しかし、一部の生徒は解答の丸写しや、提出日の朝に友人に見せてもらうなど、学習効果が期待できない者もいるので、自主的な学習へと発展させるために、成果を検証するためのテストなども実施していきたい。	・全学年で実施している週末課題について、成果の検証も含めて今後とも効果的な実施に努めてほしい。勉強時間の確保については、家庭力のアップも大切である。 ・授業等で言語活動を多く取り入れて、生徒の判断力・思考力・表現力を高めていってほしい。 ・授業を相互参観することは大切であり、授業力も向上するはずだ。 ・評価基準の「ほとんどの教員が」については、具体的な数値を示した方が分かりやすい。	A
	○学習指導の改善と充実	・積極的に授業を参観し、また公開することにより、相互の授業参観を通して生徒理解や授業方法・技術の交流・共有を進め、授業改善を図る。	4: ほとんどの教員が授業参観・授業公開を合わせて3回以上実施した。 3: ほとんどの教員が授業参観・授業公開を合わせて2回実施した。 2: ほとんどの教員が授業参観・授業公開を合わせて1回の実施に止まった。 1: ほとんどの教員が授業参観・授業公開のいずれも実施しなかった。	4	各教科で設定した研究授業・研究協議、教育実習、11月に実施した授業公開週間を中心に、相互の授業参観や研究協議を通して本校の生徒の現状理解や授業技術の向上を図った。授業参観・公開の合計回数で2回以上の実施がなされた教員数は全体の約9割を占めたが、3回以上の実施は半数の教員に止まった。自教科だけでなく他教科との教員との話し合いとともに、他校種の授業参観などを通して、授業の改善・充実を図り、わかりやすい授業を目指していきたい。		
生徒指導	○基本的生活習慣の自立的確立	・身だしなみ指導と朝の立ち番指導を通して生徒の自覚的な生活習慣の確立を図る。	4: 身だしなみ指導と立ち番指導が毎月及び毎日実施され、全教職員の協力による指導が図られた。 3: 身だしなみ指導と立ち番指導が学期1回及び週1回程度実施され、全教職員の協力による指導もほぼ図られた。 2: 身だしなみ指導と立ち番指導が年1回及び月1回程度しか実施されず、全教職員の協力体制が不十分であった。 1: 身だしなみ指導も立ち番指導も全く不十分であった。	4	基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎日の朝の立ち番指導、昼休みの校内巡視、定期的実施している校外巡視や通学列車マナー指導等全教職員の協力を得て実施できた。今後の検討課題としては、朝の立ち番指導のなかで積極的に実施してきた「あいさつ運動」の成果が十分にでない点について、生徒会活動の中に取り入れていきたいと考えている。 また、生徒や保護者のアンケート結果において、「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いている。」の内容に対して9割があてはまるとの回答があった。今後も、指導してきた内容と生徒の心身の姿容をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図りながら、来年度の評価基準を設定していきたい。	・頭髮指導等の生徒指導が難しいことは理解できる。今後もしっかり指導していきい。 ・自転車は軽車両の扱いであり、道路交通法を踏まえて、今後とも適切な交通安全指導をお願いしたい。	A

生徒指導	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会や各クラスで学校行事(明日葉祭・体育大会・クラスマッチ・生徒総会等)に積極的、主体的に参加する。	4:生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られた。 3:生徒会を中心に各行事ともクラス活動が行われた。 2:行事によっては活動が不十分であった。 1:クラスの活動が積極的ではなかった。	3	昨年度から、生徒会を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。来年度も生徒の主体性を推進するために各種委員会の充実を図っていきたい。 学校行事への積極的な参加については生徒・保護者それぞれのアンケートでも約9割の良い評価を得ており、生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。	・評価基準4でも充分であり、今後とも委員会活動の活性化と学校行事の充実を努めてほしい。	A
進路指導	○進路実現のための実力養成	・生徒の希望進路実現に必要な実力養成のために、特に模擬試験の効果的な指導を図る。	4:模試の事前・事後指導が効果的に行われ、成績向上が認められた。 3:模試の事前・事後指導が計画的に行われた。 2:模試の事前・事後指導室は実施したが、効果が不十分であった。 1:模試の効果的な活用ができなかった。	3	各年次とも、時間の確保が難しい中で、工夫して事前指導・過去問題の提示・練習に取り組み、事後も返却だけで終わらず、結果の見方や課外等を利用した問題の解説等を実施した。生徒の模試を受ける意識は高まった。今後、高まった意識を実力養成の行動につなげるのが重要で、自学自習の活動等、積極的に実力養成に取り組む環境の整備・実践をさらに進める必要がある。	・進路実現に向けて、自習室の利用や自習倶楽部の活用等による自学自習の活動を通して、勉強時間の確保に努めてほしい。家庭での学習習慣の確立も大切である。	A
	○進路意識向上のための計画的指導の推進	・総合的な学習の時間を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4:アンケートで「役立った」との回答が概ね8割以上であった。 3:アンケートで「役立った」との回答が概ね6割以上であった。 2:アンケートで「役立った」との回答が概ね4割以上であった。 1:アンケートで「役立った」との回答が概ね4割未満であった。	4	生徒アンケートでは肯定的回答が83%、保護者アンケートでは肯定的回答が81%で、比較的高い評価を受けている。1年次から上級学校見学、学校等調査研究・発表、職業人講話・出張講義等、継続的な進路研究は進路について考える機会として有効であったと思われる。今後、高まった意識をより高い希望実現のための実力養成に効果的につなげることが課題である。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任、校内コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアの必要な生徒の早期発見・早期対応に努め相談活動の充実を図る。	4:心身のケアの必要な生徒への連携した機敏な対応と共に、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3:心身のケアの必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2:心身のケアの必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1:心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	スクールカウンセラーを中心に学期に一度のケース会議をもち、ケアの必要な生徒の早期発見対応がスムーズに行われた。また、ケース会議の他にも必要に応じて各年次で対応を話し合うなど迅速に生徒を支援することができた。	・心身共に健康な学校生活を送れる環境づくりに向けた更なる努力に期待している。 ・精神面が幼稚であったりゲームやスマートフォンに依存しているのは心の問題でもある。スクールカウンセラーの充実と共に、担任、校内コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携して心の健康に注意してほしい。	A
	○学習環境の整備	・ゴミを出さないとともに清掃活動の徹底を図り、花壇づくりや校内美化に努め学習環境を整備する。	4:清掃活動その他の美化活動が計画通りに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3:清掃活動その他の美化活動がほぼ計画通りに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2:清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1:計画のみにとどまった。	3	花壇・外庭については環境委員をはじめ掃除の生徒が良く活動した。特に花壇については春秋2回の土作りから苗の植え付け、水やり、除草などのおかげでとてもきれいな花を咲かせることができた。清掃活動については決められたことは自分から率先して活動する生徒はまだ少ない。特にトイレや階段・廊下の隅など不十分なところがある。		
業務改善	学校の組織等	・学校運営の全体計画を作成し、組織と業務を再編整備する。	4:全体計画が作成され、学校運営の充実が大いに期待できる。 3:全体計画が作成され、学校運営の充実がかなり期待できる。 2:全体計画の作成が中途半端に終わり、学校運営の充実があまり期待できない。 1:全体計画が作成されなかった。	3	年度当初、各分掌から全教職員に課別業務一覧・年間業務一覧が示されることにより、計画的に業務を行うことができた。生徒減及び教員定数減に伴う分掌・部活動の組織の再編もスムーズに行われている。企画運営委員会等において、校務分掌業務内容及び各種委員会の検討を行い、校内組織の活性化に努めたい。	・校内組織の活性化に努めると共に、多忙な中、健康面にも充分留意して業務に当たってほしい。	B
	○機能的な校内組織の再編						
	○日常的な業務	・学習指導、生徒指導等に関する諸規定を整備する。	4:諸規定が大いに整備された。 3:諸規定がかなり整備された。 2:諸規定があまり整備されなかった。 1:諸規定に手をつけられなかった。	3	組織の再編に伴い、諸規定においても整備されてきている。		
	○教育活動業務の効率化						
勤務状況	・業務分担の均等化を通して勤務状況の改善を図る。	4:大いに改善が図られた。 3:かなり改善が図られた。 2:あまり改善が図られなかった。 1:全く改善が図られなかった。	2	昨年度から分掌の再編と業務の関連・統合を行い、業務の効率化と業務分担の均衡化を図っているが、勤務状況が特に大きく改善されたとは言えない。			

6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
【成果】	①明日葉祭などの学校行事やPTA関連の各種行事、会議などに保護者が積極的に参加し、PTAの連携が深まっている。また、PTAの提案により、上級学校見学会を行ったことで、子どもの進路に対する保護者の意識が高まった。 ②基本的な生活習慣の確立を目指し、あいさつ運動、身だしなみ指導等が全校で組織的に行われ成果を上げている。また、週末課題や自習倶楽部の活用により生徒の学力が向上している。 ③キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導が適切に行われ、1・2年次生の進路意識が高まると共に3年次生の進路実現にもつながった。						
【課題】	①PTA総会の参加率を増加させると共に、図書館利用の増大を図る必要がある。 ②進路意識が実力に、特別活動が自主性に、マナー指導等が規範意識につながる指導を更に進めていく必要がある。 ③諸規定の整備を更に進めると共に、業務の効率化と業務分担の均衡化を図っていく必要がある。						
7 次年度への改善策							
①保護者へのPRに努め学校行事への参加を促していく。図書館利用の活性化について、図書臨時職員との連携を強化すると共に各種イベントを企画する。 ②自習倶楽部の充実を図ると共に週末課題や平素の課題等を精選し、出題のバランスを取りながら家庭学習時間の増加を図る。生徒会役員のリーダーシップを高め、あいさつ運動、美化活動を中心に全校生徒のマナーを育成する。 ③分掌業務内容や部活動の統廃合について検討する。学習指導、生徒指導等に関する諸規定を関係部署で見直していく。							